

# 読み解く力を育む授業ポイント

## 1 読み解く力が求められる背景

2030年頃【超スマート社会（Society5.0）】の到来

⇒これからの時代を生き抜くために必要な力を育む

⇒生涯にわたって学びつづける力（自己学習力、自己決定力）

⇒義務教育9年間で「読み解く力」を育成し学力有情を図る

## 2 読み解く力と読み解く力の関係

### （1）読み解く力とは

科書等の文章教や図表等から読み取ったこと（認識）を基にして、分かったこと、考えたこと（思考）を相手に伝える力（表現）

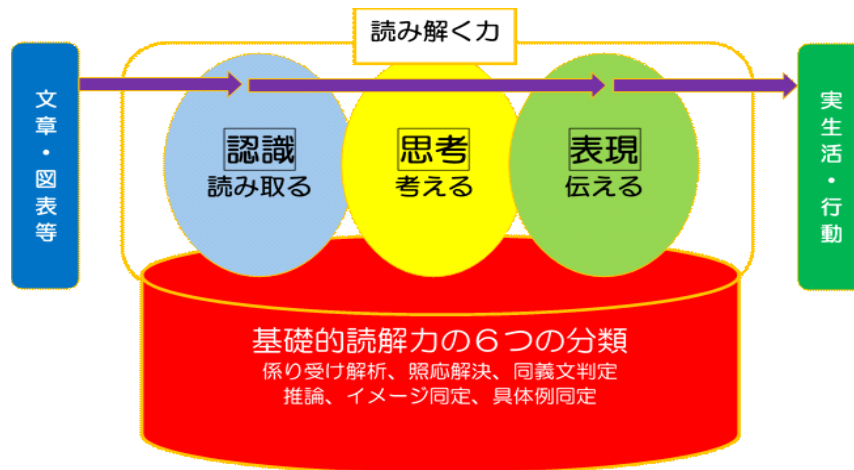
### （2）基礎的読解力とは

文章や図表等から、情報を正確に読み取るための基礎的な読む力であり、読み解く力の育成を支える能力である。

基礎的読解力の6つの分類（R S Tで測定）

- ・係り受け解析
- ・照応解決
- ・同義文判定
- ・推論
- ・イメージ同定
- ・具体例同定

### （3）「読み解く力と基礎的読解力の関係」



## 3 読み解く力を育成するための3原則

（1）教科書等を読む際、教師が読む視点を明確に示すとともに、児童・生徒が理解できるものは児童・生徒自身に読み取らせ、言語化させる。

（2）本時の目標・ねらいを達成するにあたり、基礎的読解力の視点を適切に取り入れる。

（3）授業の中で、必要最低限の学習用語・記号等は全ての児童・生徒が理解できるよう確認する。

#### 4 「言葉」「書く」「読む」の3つにこだわった指導を

本校のこれまでの研究成果と課題を整理しつつ、読み解く力を育む授業ポイントを小中一貫学びのエリア授業スタンダードに沿ってまとめてみました。「言葉にこだわる」「書くことにこだわる」「読むことにこだわる」3つの「こだわり」を各教科、領域で工夫し、学力向上につながる読み解く力の育成を図っていきたいと考えます。

### 1 言葉にこだわる

言葉は、考え、学び、伝達する等、生きていくために欠かせないものです。子どもの言葉の発達は、就学時前の6歳でほとんどが完成します。6歳までに3000～10000語もの語彙数を獲得すると言われています。語彙が少なければ、書かれている文章の読み取りはできません。語彙を増やし、文章の構成を理解させる上で、言葉にこだわる指導を進めてください。

#### (1) 語彙を豊かに(学習指導要領国語科より)

##### ① 語句の量を増やすことに関して

- ・1.2年…身近なことを表す語句。
- ・3.4年…ようすや行動、気持ちや性格を表す語句。
- ・5.6年…思考にかかわる語句。

##### ② 語句のまとまりや関係、構成や変化など

- ・1.2年…意味による語句のまとまりがあることに気付く。
- ・3.4年…性質や役割による語句のまとまりがあることを理解する。
- ・5.6年…語句の構成や変化について理解する。

語感や言葉の使い方に対する感覚を意識する。

##### ③ 教科書に記載されている語句について確認する。

##### ④ 辞書を活用する。(3年生以上)

##### ⑤ 具体的に使う場を設ける。

#### (2) 主語と述語の関係、修飾語と被修飾語の関係を意識(係り受け解析)

#### (3) 主語や目的語が省略されている文章で、意図的に主語や目的語を確認(照応解決)

#### (4) 何について書いてあるのか確認(イメージ同定、具体例同定)

#### (5) 定義づけ「～とは」(具体例同定)

### 2 書くことにこだわる

書くことで、考えが整理され、まとまります。また、文節意識ができ、言葉のまとまりとしてつかえるようになります。書く(描く)ことは、イメージすることにつながり、語彙を増やすことにもつながります。計算するにしても、漢字のドリルをやるにしても、「書く力」が必要になります。頭でわかっている、「書く力」がないと、書くこと自体に負担を感じてしまいます。学習指導要領では、「書くこと」について形成、記述として記載しています。読み解く力の育成に当たっては、各教科で毎時間意識して書くことにこだわる指導を進めてください。

#### (1) 考えの形成、記述について(学習指導要領)

##### ① 自分の考えを明確にし、書き表し方を工夫すること

- ・1.2年…語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるようにする。
- ・3.4年…自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にする。
- ・5.6年…簡単に書いたり、詳しく書いたり、事実と感想、意見と区別して描いたり、図表やグラフを用いる。

#### (2) 授業の展開に沿って書くことにこだわるとは

##### ① めあてを書く。(主に係り受け解析、照応解決)

##### ② 自分の考えを書く。(主に推論、イメージ同定、具体例同定)

##### ③ 友達や先生の考えを書く。(主に同義分判定、具体例同定)

##### ④ まとめを書く。

(係り受け解析、照応解決、推論、同義分判定、具体例同定、イメージ同定)

##### ⑤ 振り返りを書く。(○字以内、○字程度、キーワードを使ってなど)

#### (3) 視写

##### ① 3分間で丁寧に濃く書く。

- ・学年事のめやす(うつつまるくん HP より)

1. 2年…分速15字×3分＝45字程度
- 3年…分速20字×3分＝60字程度
- 4年…分速25字×3分＝75字程度
- 5年…分速30字×3分＝90字程度
- 6年…分速35字×3分＝105字程度

②目標が達成できたら、横書き、教科を変えて、個条書き等のいろいろな書き方に慣れるようにする。

③国語以外の算数や社会科、理科等の視写にも慣れさせる。語彙の獲得や特性にあった表現の仕方に慣れることができる。

#### (4) 記録

①見たとおりに書く（描く）。イメージ同定にかかわる力を身に付ける。

- ・各教科の中で、見たままを見たとおりに書く（描く）
- ・見たことを図や表に表現させ、図や表を使って説明させる
- ・家庭や図工等で手順をテキストでしめし、手順通りに説明、作業させる

#### (5) 言い換え

①同じ意味を持つ言葉を言い換える。同義文判定の力が身に付ける

- ・○○はどういう意味（別の言葉で言い換える）
- ・同じ意味の文として2つの文を1つに、1つの文を2つに表現させる

#### (6) MIM

#### (7) 共書き、聴写、筆圧

①教員と子どもが同じスピードで板書・ノートへ書く。

②文節を意識しながら読み聞かせ、ノートに書かせる。

③めあてや定義を書く。

#### (8) 望ましいえんぴつの持ち方、書くときの姿勢は

「書く」を支える基本的な取組です。

### 3 読むことにこだわる

学習指導要領では、「読むこと」の指導事項を構造と内容の把握、精査、解釈、考えの形成、共有に分けて記載されています。ここでは、各教科等で「読むこと」の指導に関係付けた内容で押さえています。

#### (1) 教科書文を読む

##### ①構造の内容と把握

- ・1.2年…内容の大体。
- ・3.4年…考えとそれを支える理由や事例との関係。
- ・5.6年…分掌全体の構成を捉えて要旨を把握。

##### ②精査・解釈

- ・1.2年…分掌の中の重要な語や文。
- ・3.4年…中心となる語や文。
- ・5.6年…必要な情報を見ついたり、論の進め方について考えたり。

##### ③音読する

- ・音読するめあての提示をしながら。
- ・家庭学習との連携。

#### (2) 教科書で確認する

- ・まとめや振り返りで自分(自分たち)で考えた内容と比べたり、手順や方法を確認めたりする。

#### (3) 読書について

##### ①読書のねらい

- ・1.2年…読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。
- ・3.4年…幅広く読書に親しみ、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付く。
- ・5.6年…日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げること役立つことに気付く。

##### ②本の読み方を指導する。

##### ③科学的な読み物などの説明的な文章も読む。



- ・持ち方
- ・姿勢
- ・ものさし
- ・2B,B

- ④読書積み立てカードを活用しながら振り返ると共に、読んだ本を紹介するなどの交流の場を設ける。
- (4) 授業の展開に沿って教科書を「読むことにこだわる」
  - ①「音読する（飛ばし読みをさせない）」「線を引きながら読む」「緩急をつけて読む」。
  - ②**要約の練習をする。**
    - ・本や長い文章を要約するには、単語の意味や著者の主張を正しく理解し、言葉を別の言葉に置き換えることが求められる。
    - ・100字前後で、「何について述べているのか」「結局どのようなことを言いたいのか」に触れて書く。
  - ③めあての内容を確認するために読む。(音読)
  - ④自分の考えを読む。(発表する)
  - ⑤友達のを考える読む。
  - ⑥まとめの内容を確認するときに教科書の文章を読んで確認する。

#### 4 読み解く力を育成する板書（板書の構造化）

### 少人数算数指導5年

・めあてを確認し、学習する内容を再確認

・文末はアウトプット

発表の仕方について視覚化

合同とはの定義づけ。  
合同とは…

**自力解決**

- ・時間の確保
- ・ノートに自分の考えをよく書いていた。

**集団解決**

- ・実物投影機を使って子どもが説明。自分の考えを読んで深めていた。

**まとめ**

- ・子どもの発言を基に板書してまとめると共に、教科書ではどのようにまとめているのか、確認して読む場も設定したい。
- ・めあてに対してどうであったか。

学び直し、学びの修正、新しい気付き、次への課題につなげるように

- ・何について振り返ればいいのかの視点を提示
- ・学んだ内容の再確認
- ・次時につながる学習意欲と見通しをもたせる
- ・面白かった、よかったで終わらない
- ・友達の名前や考えが出てくるように

# 週案を活用しよう

昨年度末に、板橋区教育委員会から出された「週案の書き方(例)」です。授業を通して読み解く力を育成するためには、日常の授業で6つの分類を意識することが必要です。板七授業スタンダード(板橋区授業スタンダード)に沿った、手立てを工夫してください。

そのためにも、週ごとの指導計画に

I = INPUT (認識)、T = THINK (思考)、O = OUTPUT (表現) の視点で6つの分類のどれかを位置付けて記入して実践してください。1時間に1つ、1日に1つどこかの授業で記入するようにしてください。この取組は、読み解く力の日常化につながると考えます。日常の授業の中で検証するようにしてください。改めて、6つの分類の活用は、めあてを達成するための手立てです。

## 【参考】

### 週ごとの指導計画 記入例 (小学校)

月 (7日)		火 (8日)	
	全校朝会 内科検診	朝学習 (国語)	
1 行事	内科検診 ※必要に応じて15分間隔で横線で区切る。	1 算	「いろいろな体積」(7/10) P60 ○辺の長さが変わっても、体積を計算で求められるか考え、説明しよう。
家 庭	「ソーイング始めの一步」(1/7) P20 ○縫うこととのりではあることには、どのような違いがあるのかを考え、学習のめあてを決めよう。 縫った写真とのりではった写真	数 (少)	プリント 1mの立体 ぐんぐんコース ※単元名、題材、ねらい、内容、教科書ページ等を記入する。
2 理 科	「魚のたんじょう」(2/9) P40 ○メダカの雄雌の見分け方を見つけて、図にかいて説明しよう。 デジタル教科書 ※用意するものを具体的に記入する。	2 体	「マット運動」(3/5) 体育館 ○タブレットで動きを確認して伝え合い、なめらかな動きで回転できるようにしよう。 学習カード タブレット ・場の工夫をし、回転時に十分な広さを確保する。
3 算 数 少	「いろいろな体積」(6/10) P59 ○これまでよりも大きな立体の体積の求め方を考え、説明しよう。 プリント ぐんぐんコース [T・推論]	3 行 事	「縦割り班活動」 校庭 ・班別に集合する。 ・顔合わせを行う。 ○なかよしタイムの計画を立てよう。 (雨天時は各教室) ※安全面を記入する。
4 音 楽	※指導方法工夫改善加配(少人数またはTT指導)を実施する場合は、教科名の欄に(少)と記載する。 ※少人数による学習の場合は、その形態、TTによる学習の場合は役割(T1・T2)について記入する。	4 国 語	「文の組み立てをとらえよう」(1/2) P74~75 ○主語と述語を確かめながら、文の組み立てを説明しよう。 主語と述語の短冊【O・係り受け】
5 国 語	「世界でいちばんやかましい音」(7/7) P57~73 ○物語の構成をとらえ、物語の中で最も大きく変わったことは何かを考え、伝え合おう。 文章構成のプリント	5 社 会	「米づくりのさかんな地域」(2/11) P62~63 ○米の産地の自然条件には、どのような特色があるか、資料から読み取りノートにまとめよう。 デジタル教科書 [I・イメージ]
6 道 徳	「名前のない手紙」P82~87 ○勇気をもって正義を実現することについて、考えよう。 拡大挿絵 道徳ノート 「いじめ」の傍観者のページで、いじめの四層構造を押さえる。	6	※「読み解く力」の育成のため、授業で基礎的読解力(6つの分類)を取り入れる場合は、上記のように記入しておく。 I ⇒ INPUT (認識) T ⇒ THINK (思考) O ⇒ OUTPUT (表現)
※記入事項例			
①授業後の反省(PDCA) ②計画の変更 ③児童の状況 等を記録する。			
※児童の状況の記録については、個人情報の取り扱いについて十分留意する。			

# 板橋授業スタンダードの流れで

## 「ねらい」「課題」「めあて」

### ねらい

- 目的（身に付けさせたい力など）と手立て（その授業の中心となる学習活動）を明らかにして設定する。
- 評価基準はねらいとの整合性をもたせる。
- 指導のねらいは、教師の立場で書く。

### めあて

○めあての文字数は、これまでの実践から20字～50字程度である。平均すると、32文字程度である。  
○文末はアウトプットで。

- ねらいを子どもの立場で示す。
- 身に付けたい力を身に付けるための「めざす活動のゴール」「ゴールとそれまでの道筋」を示す。
- 十分にゴールまでを示せなかった場合は、補足して確かめる。
- 具体的な評価基準に基づいて設定する。
- 学習の見通しをもたせ、学習の意欲を高めるよう工夫する。

### 課題

- この時間に解決すべき事柄。
- 「なぜ～なのか」「～することはできるだろうか」「どうしたら～できるだろうか」など、疑問の形で示す。
- 追求したくなる課題を設定する。
  - ・既習学習、既有経験とのずれがあるもの。
  - ・意見の対立、拮抗があるもの。
  - ・目標達成までに超えなければならないハードルとなるもの。
  - ・素朴な驚きや疑問、憧れからの問題意識を耕すもの。

## 読み解く力を支える授業づくり：「めあて」について

授業の中で「めあて」を示す目的は、この授業で何ができるようになるればいいのか、何をどのように考えればいいのかという、学習の目的や方向性を示し、1時間の見通しを子どもにもたせるためのもの。

- ・形式的になっていないか。
- ・子どものめざすものになっているか。
- ・めあてをめざして考え続けていたか。

「めあて」は、「主体的・対話的で深い学び」の主体的につながる。何をめざすのかがはっきりしているから、子どもは主体的になります。課題との整合性をつけながら、設定するようにする。

### Point 1

#### ○「めあて」を提示する。

- ・子どもにとって理解できるな内容になっているか。
- ・子どものめざすものになっているか。
- ・文末はアウトプットになるようにする。

### Point 2

#### ○「めあて」をノートに書く。(共書き、聴写)

○本時を支える方向である。  
自力解決、集団解決まとめ、  
振り返りで常に確認し、意識  
させたい。

#### ○「めあて」の取組内容を確認する。

- ・めあてを読む。

#### ○文末に合わせて内容、手順を確認する。

- ・「考える」…何をつかって
- ・「説明する」…だれが、だれに、どのように
- ・「資料をつかって、まとめる」…資料は、どのように

### Point 3

「めあて」では、係受け解析、照応解決を意識する。

- ・めあてや問題を提示する時、しっかりと音読させる。
- ・めあてや問題を提示した時、その文章の内容について、教師が必ず問いかける。  
何が？ 求めるものは？ 分かっていることは？ いくつやるのか？ どうするの？ はじめにやることは何？ など
- ・場合によっては問いかけに対して答えになる箇所を、青線、赤線、黒線などを引かせる。
- ・めあてや問題の文章が長かったり複文や重複文などで書かれていたり、複数やることがあったりする内容の時は、①②などの記号を使い、箇条書きに書き換えさせる。
- ・めあてや問題をノートに丁寧に書き記させる。
- ・めあてや問題を書き記せる時、教師は共書きをさせる。
- ・めあてや問題を書き記せる時は、文字毎に書き写させるのではなく、まとまり（例えば、文節毎）毎に書き写させる。
- ・主語が省略されている時は、必ず問いかける。⇒ゼロ照応を意識する。
- ・新しい語句や新たに出てきた言葉などは、きちんと板書し、ノートに共書きさせる。
- ・その際 ○○とは、と書く。音読も忘れずに。これは定義付けです。⇒同義文判定につながる。
- ・ぐんぐん ゆっくり やがて など抽象的な表現は、子供は実は分かっていない。したがって図絵に表し（イメージ同定）理解させる。
- ・まとめや振り返りは、自分の言葉で記録（まとめ）させる。・その、箇条書きで書けるようにする。⇒同義文判定につながる。
- ・書く時間や相手へ伝える時間を意識して設ける。
- ・教科書の文を読ませるには、識字と語彙力と文章構造が大切と考える。行中を読み解かせるのがポイント。機能語（と、に、のとき、の、を、ならば、だけ、など）を正しく使えるようにする。・低学年では、見たことを短い文で箇条書きでかけるようにする。できれば順を追っ

## 読み解く力を支える授業づくり：「まとめ」について

授業の後半に「まとめ」を行う目的は、「めあて」にそって学習したことを客観的に見つめ直し、短い言葉でまとめることで、「何がわかったのか」「結果からどんなことがいえるのか」「この先、生かせることはどんなことか」など、子どもが具体的な力として自覚できるようにする。

### Point 1

- **学習のまとめをノートに書く。**
  - ・本時のめあて(課題)に対する答え。
  - ・何が分かった、できるようになったか。
  - ・結論。

### Point 2

- 「めあて」に対応したものにもものになっているか。

### Point 3

- 「子どもの発言を取り上げながら。
- キーワードや文の書き出しなどを示す工夫を。
- 教科書文にもどって、読んで、線を引いて、確認する。

## 読み解く力を支える授業づくり：「振り返り」について

授業の最後に「振り返り」を行う目的は、子ども自身が本時で学習してきたことを思い起こし、学習達成感を味わい、学んだ内容を再確認するなど、次時につながる学習意欲と見通しをもつようにすることである。振り返りを次時以降の授業づくり(めあて、課題、問題など)に生かすようにして、振り返りの必要性を経験させていく。

毎時間、振り返りの時間を確保する授業展開を図る。

### Point 1

- **何について振り返ればよいかを確認する。**
  - ・学習内容の理解、学習活動への取組み方
  - ・次の時間につながる、疑問や問題

### Point 2

- **学びの成果を実感させる。**
- **学んだことの意欲や疑問を次につなげられるようにする。**
- **本時のキーワードで学びを振り返りさせる。**

### Point 3

- 「めあて」にそって、振り返りの視点や規準を明確に示す。
- **友達の名前や考えに触れながら書くようにすると、**
  - ・学び直し
  - ・学びの修正
  - ・新しい気付き
  - ・次時への課題 などに広がる。

書き終わらないときは、家庭学習で取り組ませることも考えましょう。



## 読み解く力を支える授業づくり：「書く」「読む」「話す」

### 共書き (聴書)

- めあてや要点などを読み上げ、それを聞いて子どもがノートに書き写す活動。
  - ・活動時間の確保
  - ・聞いて理解する力
  - ・重要な内容をノートに記録
- 視写の効果
  - ・集中力をつける
  - ・字が上手になる
  - ・文章表現の技法
  - ・表記のルール
  - ・暗唱や記憶に役立つ

### 視写

目標達成された場合は、横書きや算数、理科、社会などいろいろな教科の文章に慣れるようにする。

- MIMに取り組む。
- 丁寧にしっかりした字でマスに入れて書く。
- 3分の時間で書く。
  - ・目安となる字数
  - 1. 2年 分速15字×3=45字
  - 3年 分速20字×3=60字
  - 4年 分速25字×3=75字
  - 5年 分速30字×3=90字
  - 6年 分速35字×3=105字

- 教科特有の言葉や言い回しになれる。
- 縦書き、横書きになれる。
- 箇条書きで書くことにも慣れさせる。

### 書く・話す

言い換え答え合わせ

記録

- めあて、板書等、友達や先生の話を書き、ノートに書く。
- 振り返りで字数(80~200字程度)を決めて書く。
  - ・筆圧強く
  - ・しっかり
  - ・マスに入れて
  - ・友達が読めるように
- 板七小Basicの学習の基本を参考に日常的に指導。
- 朝の会でのスピーチを活用し、言葉の使い方慣れる。

### 読む (読書・音読)

- めあてを読む。(音読)。
- 教科書を考えながら読む。(音読)
- 下線を引いたりしてめあてに沿った情報を集める。
- まとめの教科書文を参考に確認。
- 教科書文に立ち返る。

### 語彙

- 定義づけ(～とは) ○国語辞書の活用
- 家庭学習との連携 ○校内掲示の工夫

### 学習環境

- 表題、ねらいやめあての表示
- 学習で押さえた言葉の掲示
- 学びの足跡やPointを掲示し、学習内容の発信をする。
- ノートの使い方、家庭学習など個の頑張りを共有
- 2階、3階を学びスペースとして活用(本、新聞、児童作品等の掲示や学習スペースとして)

## 読み解く力を支える授業づくり：基礎的読解力6つの分類の取組

### 係り受け解析

文の構造を正しく把握し、「だれが」「何を」「どうした」が分かる

- 主語と述語、修飾語と被修飾語を線でつなく、色分けする。
- 「だれが」「なにを」「どうした」を授業中に聞き返す。
- 「～ね。」で分けることができる文節を意識する。
- 文節読みをする。
- 「は」「が」「に」「を」など、助詞の使い方を意識する。

### 照応解決

「それ」「これ」などの指し示す物や省略されている主語・目的語が分かる。

- 「それ」「これ」「あれ」などの指示語が何を指しているのか聞く。
- 「なにが」「どうした」を意図的に聞き返す。
- 省略された主語や目的語を補う。

### 同義文判定

2つの文を比較し、それらが同義か否かを正しく認識する。

- 友達の考えを板書する際、自分の書いた文章の内容と同じかどうかを判断する。(これは～さんの考えと同じこと?)
- 友達と考えを比べ、同義か異議かを判断する。
- 解答例を基に記述した文章の答え合わせをする。
- 同じ文の意味に置き換えることができる。

### 推論

既存の知識と新しく得られた知識から、論理的に判断する。

- 結論→理由(事実)→結論の書き方、話し方に慣れる。  
「～は、～と考えます。なぜならば、～だからです。」
- 既習事項や既有体験などを基に考えることができる。
- 資料等から根拠を見つけて、演繹(えんえき)的に説明する。
- 自力解決、振り返りの時間に多く扱うようにする。

### イメージ同定

提示された文がどのようなことを表しているのかイメージする。

- 手順を示し、手順にそって活動させる。
- 表やグラフ等を正しく読むことができる。
- 図や表、グラフ等、非言語情報を文で説明する。
- 文に書いてある内容を図や表、グラフ等で表すことができる。
- 考えを整理したり、考えを深めたりするために図等を用いる。
- 家庭学習の自主ノート取組として、まとめ方を工夫する。

### 具体例同定

辞書の定義を用いて新しい語彙とその用法を獲得する。

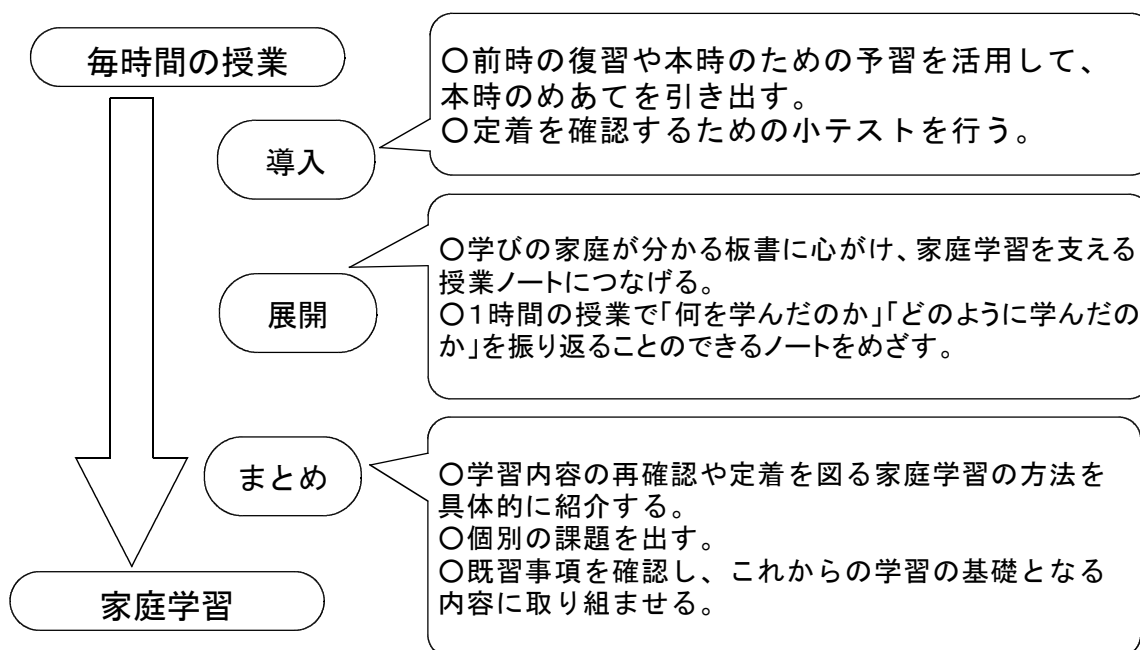
- 用語や定義等に当てはまるかどうかを判断できる。
- 定義に即して具体例を説明する。
- 新しい語彙を使って文章を書く。
- 日常的な辞書の活用

理数的な定義を理解し、その用法を獲得する。

## 授業につながる家庭学習

家庭学習で、教科書や授業で記録したノートを活用できるようにします。「めあて」「まとめ」「振り返り」の学びの筋道が分かるように板書を工夫します。この板書は、家庭学習で学習を振り返らせる活動や予習に結びつける活動に活用できます。

授業のまとめには、次の授業に何を予習するといったのか、何を復習するのかを伝えるようにします。家庭学習の内容を授業で取り上げるようにすると、意欲につながります。



### 主な参考資料

資料：・小学校学習指導要領国語編

- ・東京都教育委員会「東京都の教育 93号」
- ・板橋のiカリキュラム（読み解く力）中間報告資料
- ・板橋第二小学校「読み解く力の育成を目指して」
- ・大分県教育委員会「新大分スタンダード」
- ・佐賀県教育委員会「いつでも、どこでも、だれでも使える 授業づくりのステップ 123」
- ・板橋区教育委員会校内研究資料 他